

「2023年度秋季研究発表大会」のお知らせ

更新履歴

8月22日：大会当日プログラムの改訂（特別セッションの設定）。講演者・パネリスト情報更新。

第36回 国際P2M学会 研究発表大会 The 36th Congress of International P2M Association

「哲学とP2Mで拓くソーシャル・イノベーションの地平」

2023年度の国際P2M学会秋季研究発表大会を、下記の要領にて開催いたします。大会テーマは、「哲学とP2Mで拓くソーシャル・イノベーションの地平」です。つきましては、会員の皆様の研究発表を募集いたします。発表ご希望の会員は、今後ご案内する申し込み要領をご参照のうえ、期限までにお申し込みください。本大会は京都市中心部の[同志社大学今出川キャンパス](#)会場における対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催いたします。遠方の方でもご自宅やご勤務先からご参加いただけますので、ぜひこの機会をご利用いただければ幸いです。

1. 大会テーマ

「哲学とP2Mで拓くソーシャル・イノベーションの地平」

2. 開催日・形式

開催日 : 2023年10月29日（日）

開催校 : 同志社大学

会場 : 同志社大学今出川キャンパス（良心館）（京都市営地下鉄今出川駅1番出口すぐ）
〒602-8580 京都市上京区今出川通り烏丸東入

開催形式 : 会場と配信のハイブリッド

※インターネットに接続可能なパソコンやタブレットPC、スマートフォン等からご参加いただけます。

発表方法や参加方法の詳細は、決定次第本学会のHP上に掲載するとともに、オンラインでの参加方法は研究発表大会参加申込者にメールにて送信します。新型コロナウイルス感染症対策などの状況により、開催形態が変更となる可能性もあります。

3. 開催団体に関する情報

主催 : 一般社団法人 国際P2M学会（※）

共催 : 同志社大学

会長 : 国際P2M学会会長 亀山秀雄

実行委員長 : 同志社大学総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコース教授 大和田順子

実行副委員長 : 国際P2M学会理事 早稲田大学環境総合研究センターAEONTOWAリサーチセンター副代表 岡田久典

後援 : 独立行政法人環境再生保全機構

協賛 (五十音順) : 研究・イノベーション学会

※一般社団法人 国際P2M学会 : 国際P2M学会事務局 〒162-0801東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター(平日 : 10 時~17 時) TEL: 03-6824-9371/FAX:03-5227-8631

4. 大会要旨

春季大会に引き続き、持続可能な社会の実現 (Sustainable Development) を取り上げます。持続可能な社会を実現するためには、ソーシャル・イノベーションの推進が鍵となります。ソーシャル・イノベーションとは、あらゆる種類の社会課題に対応する新しい「戦略」「概念」「理想」「組織」「手法」を示します。そしてその基盤には現代を読み解き、未来をイメージする哲学が必要です。その際に、私の問い (社会課題の発見) を、いかに私たちの問いにするか。そして、その問いを解くプロセスで「チャット GPT」のような対話型 AI をいかに活用するか、課題解決のプロセスをいかにデザインするか。様々な分野で、多様な主体が連携・協働したプログラムを P2M の手法で企画し前に進めていく。その解決策をスケールし、ソーシャル・インパクトを拡大するか。今こそ、そのような P2M 人材が社会に求められています。

このような問題意識に立ち、わが国有数のソーシャル・イノベーションコースを持つ同志社大学において、哲学、ソーシャル・イノベーション、SDGs・地域循環共生圏、地域活性化の専門家の皆さまに、各分野の研究・実践の最前線ならびに展望を語っていただくとともに、P2M の有用性やソーシャル・イノベーションの今後の展開について皆様と議論していきたいと考えております。

5. 大会スケジュール : ※ 都合により、変更される場合があります。

(1) 午前 : 研究発表の部 (予定) ※発表プログラムは決定次第、学会ホームページに掲載します

09:00~11:00 研究発表

(11:00~11:10 休憩)

特別セッション 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金連携

09:00~11:00 地球環境基金支援団体活動報告

11:10~11:40 招待講演 : 「地球環境基金のこれまでとこれから」

大島圭子 氏 (独) 環境再生保全機構地球環境基金部地球環境基金課
副主幹

(11:40~12:40 昼食休憩)

(2) 講演の部 (予定) : 基調講演者、パネリストのプロフィールは本案内の P6 を参照ください

12:40~12:50 開会挨拶 亀山秀雄 氏 (国際 P2M 学会会長)

開催校挨拶 同志社大学

12:50~13:40 基調講演 1 : 「GX 時代における哲学、I から We へ」(仮題)

出口康夫 氏 哲学者、京都大学大学院文学研究科 教授

13:40~14:30 基調講演 2 : 「ソーシャル・イノベーションの新潮流」(仮題)

中嶋愛 氏 『スタンフォード・ソーシャル・イノベーションレビュー日本版』編集長

- 同志社大学ソーシャル・イノベーションコース 客員教授
- 14:30～15:00 特別講演：「SDGsとNPO活動のこれから」
 中島恵理 氏 同志社大学総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコース 教授
 (15:00 ～ 15:15 休憩・設営)
- 15:15 ～ 17:15 パネルディスカッション：
 モデレータ：大和田順子 氏
 パネリスト（順不同）：
 基調講演者：出口康夫 氏、中嶋愛 氏
 斎藤俊幸 氏 地域再生マネージャー、地域活性化伝道師/イング総合計画代表
 福嶋慶三 氏 環境省近畿地方環境事務所環境対策課長
 兼地域脱炭素創生室長
 亀山秀雄 氏 国際P2M学会会長、独立行政法人環境再生保全機構
 (ERCA) 社会実装支援コーディネーター
- 17:15～17:25 閉会挨拶 久保裕史 氏（国際 P2M 学会副会長）

6. 研究発表大会参加費関連

- ◆ 大会参加費：今大会の参加費支払いは 全て事前振込みのみにて受け付けます。
 下記学会の銀行口座宛にお振込下さい。（振込最終締切：2023年10月19日（木））
 10月20日（金）以降は、参加申込ならびに参加費振込の受付は致しません。
 また、10月19日（木）迄に未振込の場合は、投稿論文を予稿集に掲載致しません。

	早期割引参加費 10月10日（火）まで	参加費 10月11日（水）-19日（木）
会員：正会員、法人会員に所属の方	8,000円	9,000円
：学生会員	2,000円	3,000円
非会員：社会人、社会人学生	11,000円	12,000円
：学生、大学院生	4,000円	5,000円

※予稿の筆頭著者（当日の発表者）は、国際P2M学会会員に限られます。当学会に未加入の方は、遅くとも2023年10月2日（月）までに入会手続きを済ませてください。新規入会には、上記参加費とは別に、正会員が12,000円（入会金2,000円、年会費10,000円。社会人学生を含みます）、学生会員が6,000円（入会金1,000円、年会費5,000円）、必要となります。

尚、入会費の振込み先は ホームページ及び入会申請フォームに記載の「ゆうちょ」口座です。大会参加費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

入会手続きの詳細は、学会ホームページから、こちらをご覧ください

→ <http://iap2m.org/accept>

- ◆ 講演の部のみの参加費：学会員、非会員とも：無料
 ※P2Mにご関心をお持ちの方々の参加を広く呼びかけるために、本大会について、午後の部のみの参加は無料とします。午後の部のみ参加の場合も、必ず参加申し込みはおこなってください。
- ◆ 大会参加費振込み先銀行口座：
 - 三井住友銀行（銀行コード：0009）
 - 飯田橋支店（店番号：888）
 - 普通預金（口座番号：7098073）
 - 口座名義（一般社団法人 国際 P2M 学会）
 ※大会参加申し込み Web 画面で「領収書 ●必要」を選択した方には、大会開催後、領収書（PDF）をメールで送付いたします。
- ◆ 留意事項
 - ※ 振込済みの参加費は、不参加の場合でも返金できません。

7. 参加申し込み方法

- ◆ 参加申込期限：
 - 論文投稿者 9月25日（月）迄に申込み登録を済ませてください。
 - 大会参加のみの方：参加費振込の締切 10月19日（木）迄に申込登録を済ませてください。
- ◆ 研究発表大会参加申込みはこちらから（注. 発表者も、申込み登録が必要です）
http://www.iap2m.org/regist_taikai.html
- ◆ 参加登録に関する参考情報
 - ブラウザが Internet Explorer の場合、バージョンが新しいと無応答になる場合があります。
 - 次の操作を参考にして下さい。<http://www.iap2m.org/pdf/ie201309.pdf>

8. 発表者への要旨と予稿の投稿登録に関するご案内

- ◆ 要旨の投稿期限及び方法：これに基づく研究発表プログラムは別に掲載します。
 - 投稿期限**：2023年9月4日（月）23時59分（厳守）
 - 投稿方法**：要旨は、次の URL から、web 登録画面に従い入力して下さい。
http://www.iap2m.org/regist_smallcongress.html
 - 査読選択**：予稿論文の審査を希望される方は、査読希望「●有」を画面上で選択してください。
 尚、採択後の論文の学会誌掲載料は 30,000 円です。
 - 投稿形式**：スライド形式のみの予稿も歓迎します。但し、その場合、査読は選択できません。
- ◆ **発表予稿投稿期限**：2023年10月2日（月）18時
 （厳守 ※締切後の投稿は一切受け付けられません。）
 - 投稿方法**：要旨投稿時に登録されたメールアドレス宛に、後日、編集委員から「予稿投稿方法」に関するメールが届きます。それに従い、MS-Word および PDF 形式の予稿を投稿してください。

◆ 受付メール確認のお願い

要旨及び予稿投稿締切後、編集委員より受付メールを登録アドレス宛に送信します。

なお「(at)iap2m.org ((at)を@に読みかえてください。)」のドメインから届くメールが、迷惑メールフォルダに入らないように設定してください。万が一、着信しなかった場合は、下記学会事務局宛にお問い合わせ下さい。

国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

◆ 査読を希望される方へ：

査読論文：当学会では、予稿が査読論文として審査されます。

ただし、発表された論文に限ります。

頁数：最大 20 ページ

論文形式：本学会 HP「学会論文関連情報」（下記 URL）にある規程等（「国際 P2M 学会誌投稿規程」、「学会論文投稿規程補足」ほか）を遵守してください。また「学会論文サンプル」も下記 URL に掲載されていますので、ご活用ください。

学会論文関連情報：<http://iap2m.org/ronbun-info/>

補足：（１）予稿集に掲載された論文は、辞退などにより発表されなかった場合も、同じ内容では再投稿はできません。

（２）予稿に P2M との関連性と関連参考文献を明記願います。

当学会の過去の論文誌は、J-stage から閲覧できます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmjour/-char/ja>

（３）論文執筆経験が浅い方は、「9. P2M セミナー動画の掲載」にある Youtube 「IAP2M チャンネル」にある論文の書き方に関する動画を視聴するほか、学術論文作成経験者から論文作成の指導を受けることをお勧めします。

またスライドではなく論文を予稿として投稿される方は、英文要旨（または英文本文）について、可能な限り英文としての品質向上に努めて下さい。

◆発表方法：発表者に対して別途メールにて連絡いたします。会場での発表、遠隔地よりオンラインでの発表より選択可能です。議論を活発にするため会場での対面での発表を推奨しますが、オンラインによる発表であっても査読に不利になるなどの影響は全くありません。

◆発表時間：発表 15 分以内、質疑応答 5 分（全体で 20 分以内）

◆発表奨励賞：受賞者を選出し 11 月中旬頃に学会ホームページ上に掲載し表彰します。

9. P2M セミナー動画の掲載

国際 P2M 学会では、P2M の基礎知識、事例による P2M の理解、適用事例や、論文の書き方について、本学会ベテラン講師陣が分かりやすく解説した次のセミナー動画（YouTube）を作成しています。P2M に関する知識を深めたい方、論文執筆経験の浅い方など、広くご視聴いただければ幸いです。詳しくは、次のリンクをご参照ください。

<http://iap2m.org/youtube/>

10. お問い合わせ先：国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

1.1. 基調講演・パネリストプロフィール・会場アクセス

<基調講演、パネリスト プロフィール>



出口 康夫(でぐち・やすお)氏 哲学者／京都大学文学研究科 教授

京都大学文学部卒、同大学院文学研究科博士後期課程修了。確率論・統計学の哲学、科学的实在論、シミュレーション科学・カオス研究の哲学、カントの数学論、スコレームの数学思想、分析アジア哲学など研究分野は多岐に渡る。京都大学人社未来形発信ユニット長としてオンライン講義シリーズ「立ち止まって、考える」を主導すると共に、NTT や日立製作所との産学連携も行ってきた。現在、国内外で生活空間のスマート化・DX 化が急速に推し進められ、社会に正負様々な影響を及ぼし始めている。日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業学術知共創プログラム「よりよいスマートWE を目指して」(Smart WE プロジェクト)では、リアルとバーチャルな WE (人間関係・絆・共同体)の貧困化という WE 問題に焦点を当て、逆に WE を再活性化するスマート化・DX 化の処方箋を探究している。近著『京大哲学講義 AI 親友論』(徳間書店)



中嶋愛(なかじま・あい)氏 スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版 編集長

日本経済新聞社の記者として通商問題などを担当したのち、スタンフォード大学で修士号取得。帰国後、プレジデント社で20年にわたって雑誌、単行本、ウェブコンテンツの編集に携わる一方、海外ライツ事業室を立ち上げ、日本語コンテンツの海外輸出業務を手がける。担当した『ワーク・シフト』(リンダ・グラットン著)は2013年ビジネス書大賞を受賞。翻訳書に『徹底のリーダーシップ』(ラム・チャラン著)などがある。2021年より現職。2022年、『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版』を創刊。国際大学グローバル・コミュニケーション・センター フェロー。同志社大学客員教授。『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版(SSIR-J)』は2023年4月までに4冊出されている。「ソーシャルイノベーションの始め方」「循環社会」「社会科学とインクルージョン」「コレクティブ・インパクト」などを特集している。SSIR-Jでは、「主語をくわたし」に戻すをモットーに、社会課題に自分ごととして取り組む人を増やすための情報発信と場づくりをしている。



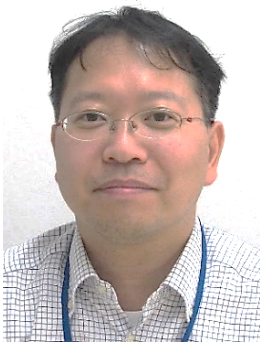
中島恵理(まかじま・えり)氏 同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコース 教授

京都市出身、1995年京都大学法学部卒業後、環境省(当時環境庁)に入省後約20年間環境政策の企画立案に関わる。1999年より英国留学、ケンブリッジ大学土地経済学部修士、オックスフォード大学環境変化・管理学科修士。2002年より結婚を機に、八ヶ岳山麓の長野県富士見町に移住。週末は富士見町で自給自足的な農的なエコライフや地域づくりに関わりながら、平日は環境行政に関わる2地域居住を実践。2013年より2年間長野県温暖化対策課長、2015年から4年間長野県副知事として環境やSDGs推進に関わる。2019年4月より環境省環境経済政策調査室長としてローカルSDGsの推進に、2020年8月より環境省脱炭素化イノベーション研究調査室長として脱炭素政策の推進に関わる。2021年4月より完全に富士見町に移住。NPO法人こどもの未来をかんがえる会及び富士見まちづくりラボの代表として子供の居場所づくりや持続可能な地域づくり活動を実践。



齊藤俊幸(さいとう・としゆき)氏 地域再生マネージャー／イング株式会社代表取締役

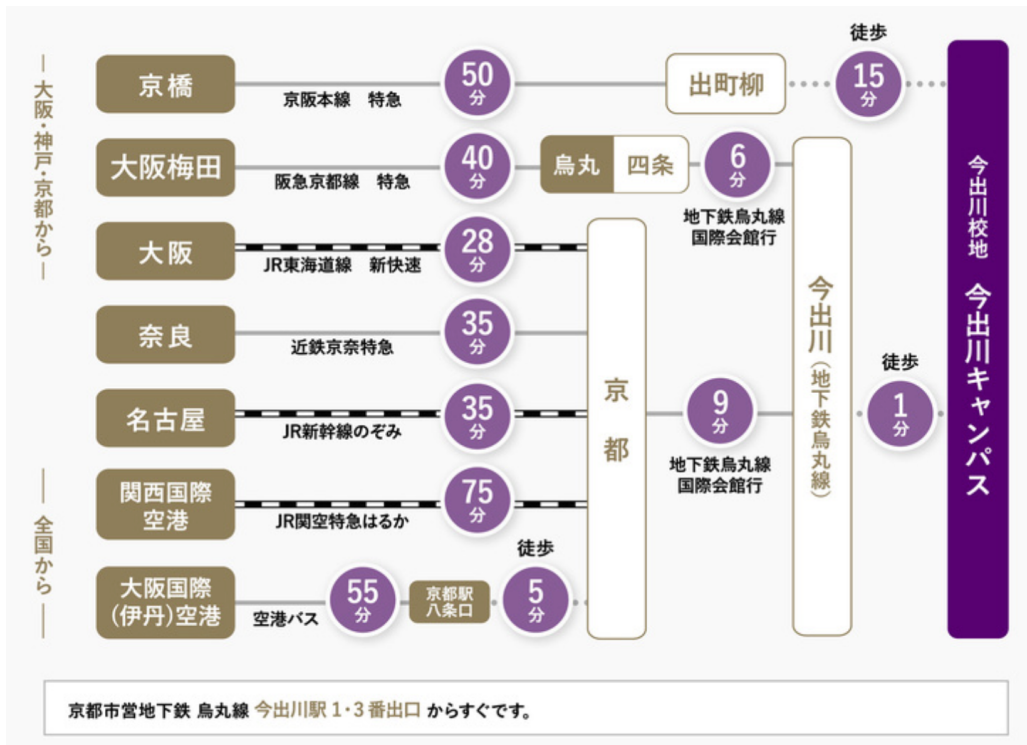
自ら11年間、地域再生マネージャーとして地域に住込み活動したことが、総務省の地域おこし協力隊制度のモデルとなった。和牛受精卵ビジネス、大豆ミート工場、バックライス工場、米焼酎蒸留所など、土地利用型農業を中心にしたプロジェクトに参加。買物難民の存在を日本で初めて問題提起した熊本県荒尾市地域再生事業は平成19年度地域づくり総務大臣表彰受賞、キルギス共和国イシクリ地域一村一品運動は第12回JICA理事長賞受賞。その他、手がけたプロジェクトの受賞多数。地域活性化伝道師(大臣室任命、最初の10名)、地域力創造アドバイザー(大臣室任命、最初の10名)、地域再生マネージャー(一期生)等、地方創生を支える外部人材の先駆的存在。66歳で博士(学術)を取得。近年は地域活性化センターシニアフェローに就任して後進の指導にあたっている。地域活性化学会理事・広報交流委員長。同学会で実務家研究者をJKと称し、JK育成を支援している。



福嶋慶三(ふくしま・けいぞう)氏 環境省近畿地方環境事務所 環境対策課長兼地域脱炭素創生室長

2002年、環境省入省、地球環境局に配属。その後、内閣官房副長官補室参事官補佐、尼崎市役所理事、環境省大臣官房政策調整室総括補佐等を経て、2021年より同省近畿地方環境事務所環境対策課長、22年より地域脱炭素創生室長兼務。キャリアの前半は主に国際関係の業務が多く、後半はまちづくりなど地域に関する業務に多く携わっている。また、プロジェクトKやオンライン市役所への参画、大学や大学院での非常勤講師など、業務外でも多くの課外活動を行っており、霞ヶ関改革からワークライフバランスの充実、SDGsやカーボンニュートラルのカードゲームを活用したワークショップのファシリテーションなど、その分野は幅広く、常に対話の姿勢と様々な視点を持った多層なネットワークの構築を大切にしている。英国サセックス大学大学院修了(環境開発政策修士)。最近の著書に『SDGs時代に知っておくべき環境問題入門』(関西学院大学出版会)など。

会場案内



<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>